

## 装いを新たにした 20 万分の 1 地質図幅

鹿野和彦<sup>1)</sup>

地質調査所では国土の地質学的実態を明らかにするために、現地での野外調査研究に基づいて5万分の1地質図幅（旧来は7万5千分の1地質図幅）を作成出版しています。その一方で、日本の全体像を把握するため、調査研究の空白地域をも含めて地質学的資料を収集編纂しており、その成果を様々な縮尺の地質図にまとめて随時公表しています。

20万分の1地質図幅は既存の資料を基に編纂される地質図の中では最も詳しく、5万分の1地質図幅の空白地域を埋める役割も担っています。20万分の1地質図幅の数は日本全体で124図幅（北方四島の6図幅を除く）あり、1998年度までにそのうちの97図幅の編纂を終えています。残された図幅の多くは島嶼地域であり、編纂を終えた面積は日本全体の9割を越えています。

20万分の1地質図幅は、地質編纂の上で問題となる点について延べ10-50日程度の野外調査を実施してはいますが、あくまで編纂図であり、新たな知見や解釈によって常に改訂されるべき運命にあります。むしろ、その価値は当該地域の地質を把握するために必要な情報をその時点で可能な限り集め、それらを解釈してわかりやすく提示している点にあります。5万分の1地質図幅の範囲を超えた、より広い範囲の地質を把握するに便利なことから、学術的な調査や、自然災害対策、資源開発、大規模構造物建設、観光開発などの参考資料として広く利用されています。大都市や大地震被災想定地域、5万分の1地質図幅の空白地域ではとくに利用者が多く、版を重ねています。

当初は地質図だけであったものが、最近では、このような広い範囲の利用を考へて、読者の理解の助けになるよう、地質図の上に鉱床や温泉の分布、重力異常など重ね合わせ、大まかな地質構造

図や地層・岩体の対比表なども示すようにしています。しかし、それぞれの図幅地域の事情に応じた地層・岩体の区分と対比、地質構造の表現、編纂に用いた文献など、地質図幅に示された地質を理解するために必要なことならについての解説は紙面の制約があったために十分になされているとはいえません。火山地質図などのように地質図の裏面に解説を付すことも考えられてはいましたが、地質図を透写するとき文字が邪魔になることから、この点は長い間躊躇せざるを得ませんでした。しかし、利用する人を増やし社会的にもその価値が理解できるようするには、より分かり易い表現が求められます。地質図を透写する作業もスキャナを用いてコンピュータに取り込むことで代替できるようになりました。このような環境の変化を考慮して、平成11年度から地質図の裏面に表紙と、地形、地質、鉱床・温泉、重力異常についての解説、文献、そして英文要旨を付けることにしました。また、20万分の1地質図幅地域内の5万分の1地質図幅と、周辺の20万分の1地質図幅を示す索引図も必ずつけて一層の便宜を図ることになりました。それが次に紹介する20万分の1地質図幅「金沢」及び「村上」です。最初の試みなので、活断層の表示に最新の成果が取り入れられていないなど、不具合などありますが、これから皆様のご意見をいただきてより確かかつ分かり易いものにしていきたいと考えております。是非皆様のご意見を下記宛お寄せ下さい。

〒305-8567 茨城県つくば市東1丁目1-3  
地質調査所地質部広域地質研究室気付  
地質編さんの研究グループ  
電話：0298-61-3651  
ファックス：0298-61-3653  
e-mail: kazu@gsj.go.jp

1) 地質調査所 地質部

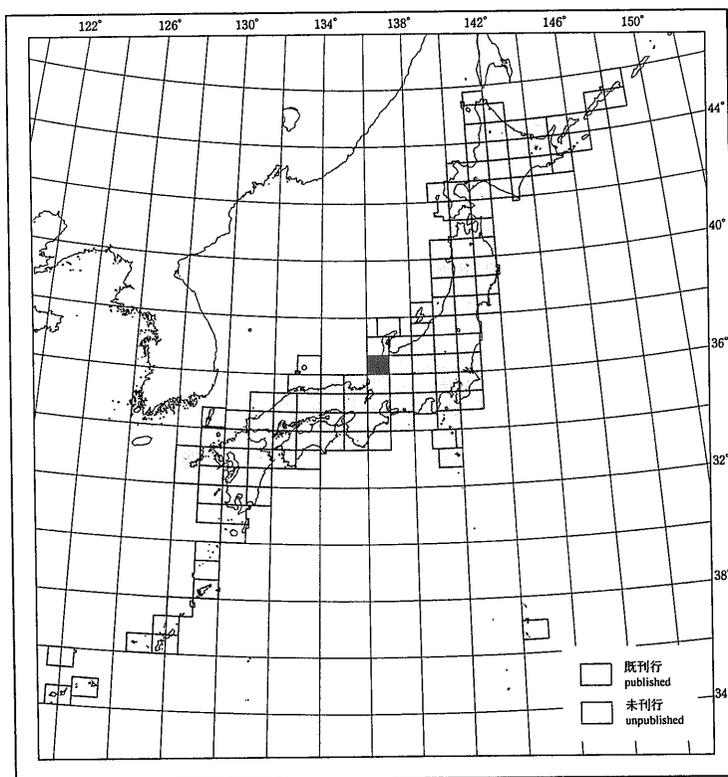
NJ-53-12・18

## 20万分の1地質図幅「金沢」

### GEOLOGICAL MAP OF JAPAN 1:200,000, KANAZAWA

鹿野和彦・原山 智・山本博文・竹内 誠・宇都浩三・駒澤正夫  
広島俊男・須藤定久

Kazuhiko KANO, Satoru HARAYAMA, Hirofumi YAMAMOTO, Makoto TAKEUCHI,  
Kozo UTO, Masao KOMAZAWA, Toshio HIROSHIMA and Sadahisa SUDO



平成11年

1999

地質調査所

GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

第1図 20万分の1地質図幅「金沢」の解説面の表紙。日本列島の大部分が編纂済みであることに注意。編纂した時期が古いものはいずれ改訂する予定。